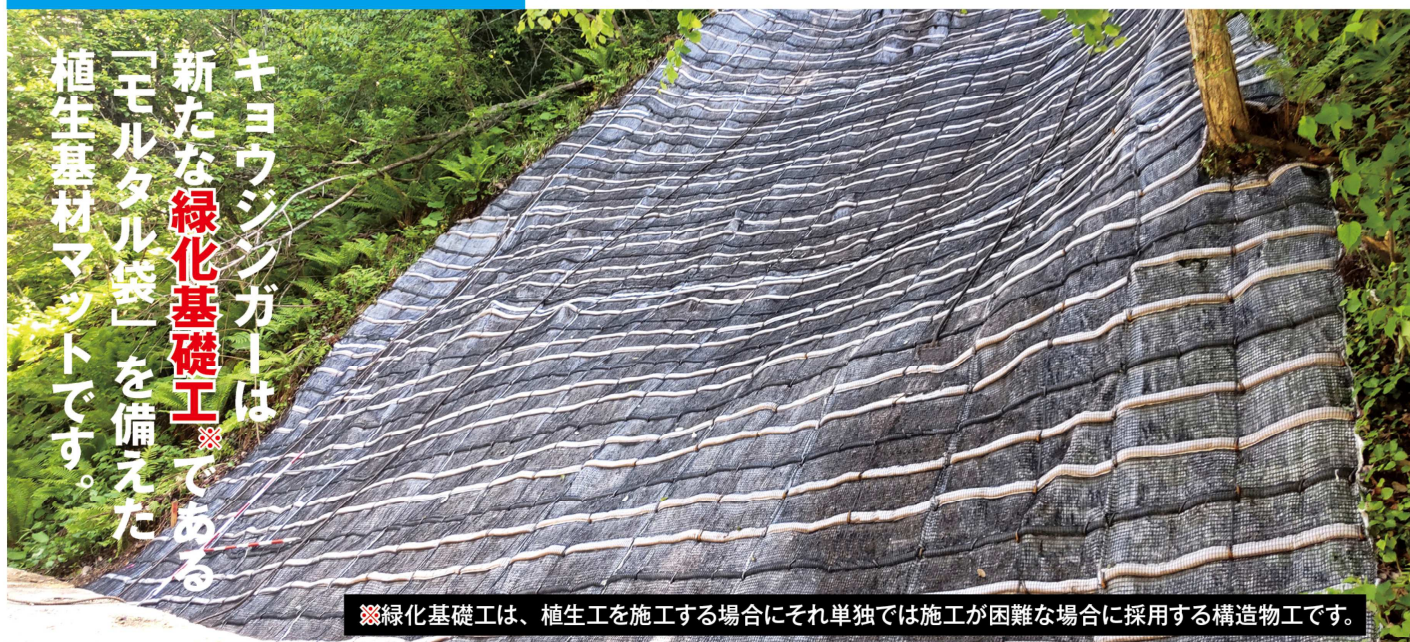
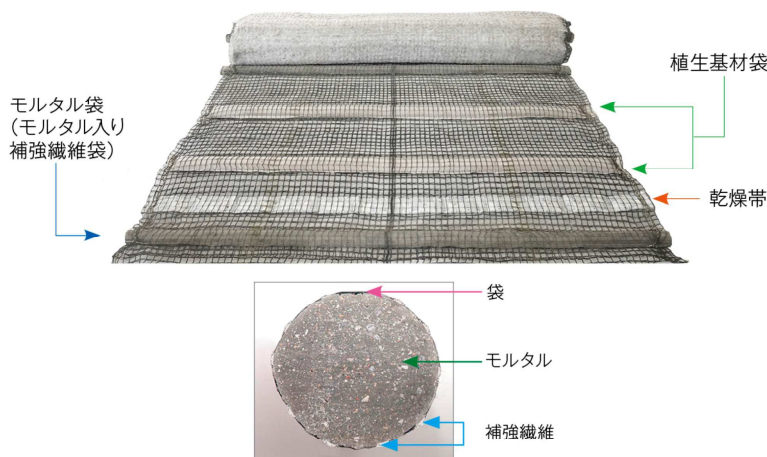


| 適用 土質 | 砂質土 | 粘質土 | 礫質土 | 岩塊 玉石※ | 軟岩Ⅰ | | 軟岩Ⅱ |
|----------|-----|-----|-----|-----------|-----|---|-----|
| | | | | | A | B | |
| | ● | ● | ● | ● | ● | | |

※岩塊・玉石まじり土で、その部分が30%程度のものです。



※緑化基礎工は、植生工を施工する場合にそれ単独では施工が困難な場合に採用する構造物工です。



モルタル袋による小段形成

固化前のモルタル袋は柔軟性があるため、のり面の凹凸に密着します。自然の雨により固化し(散水不要)斜面に小段をつくることで安定した生育基盤を形成します。

長期にのり面表層を保護する構造

固化したモルタル袋は、長期的に生育基盤を維持し、高強度のネットとの複合効果によりのり面表層を保護します。

製品規格

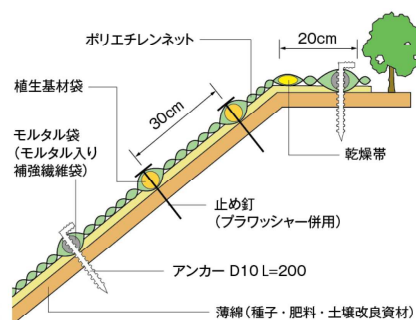
| 製品規格 | | | ネット | | | | 1袋入数 | 備考 |
|------|----|----------------------|--------|--------|---------|------|-----------------|---------------------------|
| 幅 | 長さ | 袋間隔 | 素材 | 形状 | 目合 | 色 | | |
| 1m | 6m | 30cm モルタル袋は90cm間隔 | ポリエチレン | 2重編ネット | 12×20mm | ブラック | 6m ² | モルタルの品質低下を防ぐため乾燥帯を装着しています |

施工手順

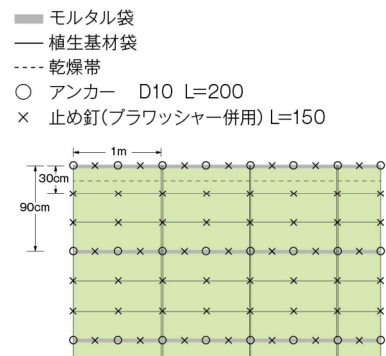
- ①のり面の雑草、浮土砂、浮石などを除去し、マットが密着するよう清掃を行う。
- ②のり肩部を20cm程度巻き込み、不織布の付いている面をのり面へ密着するように展開する。
- ③左右の重ね幅は2cm程度、上下の重ね幅は10cm程度とする。
- ④マットは植生基材袋、モルタル袋を等高線状に展開する。
- ⑤所定本数のアンカー・止め釘を規定の間隔・箇所打ち込み密着させる。モルタル袋は、アンカー・止め釘で貫いて設置する。
- ⑥原則としてモルタル袋の端部は、上下に重ねアンカーにて打設する。

- 注1) マット展開後、モルタル袋が固化する前に直ちにアンカー・止め釘にて打設ください。
- 2) アンカーはモルタル袋と一体化させるため、原則として異形棒鋼(D10)を使用ください。
 - 3) D10より大きいアンカーを使用する場合はモルタル袋をかかえるように設置ください。
 - 4) 降雨・強風時の施工は避けてください。

標準断面図



標準打設図



※必ずしものり尻にモルタル袋の配置は必要ありません。

| 100m ² 当たりの本数(10×10m) | |
|----------------------------------|------|
| ○ アンカー D10 L=200 | 252本 |
| × L=150 | 702本 |

アンカー、止め釘規格、打込み位置については標準として示しておりますので、現地条件に合わせて適宜対応してください。